

# 令和元年<sup>(※)</sup> 県政の軌跡

※平成31年1月1日から令和元年12月31日の間

I	県民と親しみ、県外に進攻した活動実績	1 頁
II	談合システムからの訣別と清潔な県政の実現	2
III	新しい県政の運営方法の導入	2
IV	ひとを育む	
	1. 未来を拓く子どもを育てる環境づくり	3
	2. みんなが活躍できる社会づくり	5
V	しごとを創る	
	1. 県内企業の成長力強化	7
	2. 農林水産業の振興	8
	3. 観光の振興	11
	4. 時代の潮流を踏まえた産業の新しい発展	12
VI	いのちを守る	
	1. 自然災害への備え	14
	2. 医療の充実と健康の維持	15
	3. 安全な社会の実現	16
VII	くらしやすさを高める	
	1. 快適な生活環境の実現	16
	2. 支え合う福祉の充実	17
VIII	地域を創る	
	1. 活力と魅力のあるまちづくり	18
	2. 地域をつなぐネットワーク	19
○	平成18年12月以降の本県への企業立地動向	21

# I 県民と親しみ、県外に進攻した活動実績

	1期目 (就任1～4年目)	2期目 (就任5～8年目)	3期目 (就任9～12年目)	4期目 就任13年目
	(H18.12.19～ H22.11.30)	(H22.12.1～ H26.11.30)	(H26.12.1～ H30.11.30)	(H30.12.1～ R元.11.30)
○県内から県庁を訪問 して下さったお客様	860 グループ	811 グループ	570 グループ	155 グループ
○県外から県庁を訪問 して下さったお客様	469 グループ	371 グループ	401 グループ	118 グループ
・国機関関係	101 グループ	100 グループ	75 グループ	22 グループ
・外国関係	52 グループ	60 グループ	80 グループ	22 グループ
○式典・大会出席挨拶	1170 回	1355 回	1353 回	316 回
○講演・シンポジウム	114 回	125 回	162 回	28 回
○県内各地への 出張回数	404 回	465 回	362 回	56 回
○県外各地への 出張回数	263 回	251 回	246 回	58 回
・東京	102 回	93 回	117 回	29 回
・大阪	95 回	100 回	84 回	18 回
・他府県 (東京、大阪除く)	62 回	58 回	45 回	11 回
○海外へのお出張回数	6 回	10 回	13 回	3 回
	(中国、スペイン、イタリア・フ ランス、ブラジル・ペルー、ト ルコ、中国)	(中国、アメリカ、香港・シンガ ポール、デンマーク・スペイ ン、タイ・オーストラリア、香 港、インド、ブラジル、アメリ カ、香港)	(インド・ベトナム、アメリカ・メ キシコ・カナダ、イタリア、トル コ・スペイン、イタリア、インド ネシア・香港、マレーシア・中 国、オークランド、台湾、ブラ ジル・アルゼンチン、中国、香 港・インド、韓国・中国)	(スペイン、シンガポー ル・タイ・香港、中国)
○公用車の 走行距離	96,110 Km	104,240 Km	100,354 Km	20,638 Km
○県内企業訪問	63 回	23 回	32 回	4 回
○国の要人との政策 議論・要望	173 項目 234 回	175 項目 254 回	219 項目 234 回	59 項目 52 回
○企業首脳トップ セールス	158 回	160 回	177 回	38 回

## Ⅱ 談合システムからの訣別と清潔な県政の実現

### ○入札制度の見直し

#### 1. 最低制限価格及び調査基準価格の一部改定(6月)

〈建設工事〉

最低制限価格及び調査基準価格の設定範囲の下限値を予定価格の70%から75%に改定

〈建設工事に係る委託業務〉

地質調査業務における最低制限価格の算定に使用する諸経費の算入率を0.45から0.48に改定

#### 2. 総合評価落札方式における低入札対策の見直し(6月)

総合評価落札方式による入札において、最低制限価格制度を撤廃し、低入札価格調査制度を導入

〈建設工事のうち以下のもの〉

- ・ 予定価格(税抜き) 3,000万円以上1億円未満の全工事
- ・ 予定価格(税抜き) 1,500万円以上3,000万円未満の土木一式工事の一部

〈建設工事に係る委託業務のうち予定価格(税抜き)1,000万円以上3,000万円未満の以下のもの〉

- ・ 比較的難易度の高い土木関係建設コンサルタント業務(区分B2・C)
- ・ 比較的難易度の高い建築関係建設コンサルタント業務(区分B・C1・C2)

#### 3. 低入札価格調査における特別重点調査の見直し(6月)

〈特別重点調査基準額の設定率の改定〉

- ・ 共通仮設費の70%から80%に改定
- ・ 現場管理費の70%から80%に改定

#### 4. フレックス工期による契約方式の一部見直し(12月)

- ・ 余裕期間(落札予定日から着工期限日まで)を60日以内から90日以内に変更
- ・ 前払い金の請求可能日を着工日の14日前の日以降であれば請求可能に変更

## Ⅲ 新しい県政の運営方法の導入

### ○ 知事が直接県民の皆様と意見交換する「和歌山県行政報告会」を開催(平成31年1月～令和元年12月末の間に24回)

### ○ 「中期行財政経営プラン」に基づく行財政改革の取組

- ・ 事務事業の一層の見直し ▲9.3億円
- ・ RPA(ソフトウェア上のロボットによる業務の自動化)、議事録作成支援システム、モバイル専用行政事務用パソコンなどICTの活用による事務の効率化

### ○ 組織改正

(4月)

- ・ 国民文化祭及び全国障害者芸術文化祭の本県開催に向けた体制強化

2021年に本県で開催する「第36回国民文化祭・わかやま2021」及び「第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会」の一体開催に向けた準備を着実に進めるため、文化学術課に国民文化祭・障害者芸術文化祭推進室を設置

- ・ 和歌山県立南紀熊野ジオパークセンターの開設に向けた体制強化

和歌山県立南紀熊野ジオパークセンターの開設準備を着実に進めるため、環境生活総務課に南紀熊野ジオパークセンター開設準備室を設置

- ・ 里地、里山などの農村環境の保全及び活用等を推進するための体制強化  
里地、里山などの農村環境の保全や活用に加え、世界農業遺産、日本農業遺産をはじめとする伝統農法の維持継承等を推進するため、農林水産総務課に里地・里山振興室を設置
- ・ 統合型リゾート(IR)誘致を推進するための体制強化  
本県におけるIR誘致推進に向けた体制強化のため、IR推進室長を専任で配置し、担当職員を増員
- ・ 工業技術センターの技術支援体制及び情報発信の強化  
産業分野ごとの支援体制から産業を横断する技術分野ごとの支援体制に部を再編するとともに、総括研究員(情報発信・窓口サービス担当)を新たに配置

(7月)

- ・ 和歌山県立南紀熊野ジオパークセンターを開設  
南紀熊野ジオパークの調査、研究、保全及び普及啓発を行うとともに、ジオパークを教育及び観光振興に活用することにより、持続可能な地域の発展に寄与するため、和歌山県立南紀熊野ジオパークセンターを開設

#### ○ 人事異動(4月～)

- ・ 中央省庁等への派遣を推進 7省6庁等に26人
- ・ 外国等への研修派遣を推進 6団体に11人
- ・ 都道府県等との交流を推進 京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、関西広域連合に8人
- ・ 民間等との交流を推進 12団体に13人
- ・ 県と県内市町村等との人事交流を推進 8市町等に14人
- ・ 大学院等への研修派遣を推進 9人
- ・ 災害復旧応援(岩手県) 1人

#### ○ 令和2年度国の施策及び予算に関する和歌山県の提案・要望(6月)

- ・ 県の重点施策を推進する上で必要となる予算の確保や制度の創設・拡充に向け、関係省庁に対して提案・要望活動を実施(提案・要望先:内閣府・内閣官房、総務省、法務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、消費者庁、警察庁)

#### ○ 新政策にかかる市町村長懇談会(10月)

「令和2年度新政策と予算編成の方針」及び「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」を提示し、市町村長と意見交換を行うことを目的に、紀北・紀南地域でそれぞれ開催

## IV ひとを育む

### 1. 未来を拓く子どもを育てる環境づくり

#### ① 子どもが心豊かにたくましく育つ環境づくり

##### ○ 和歌山子育て応援DAY(3月)

様々な子育て支援施策について親子で楽しみながら情報も得ることができるイベントを、子育て支援団体と協力して開催(約400人が参加)

##### ○ 夏の子供を守る運動(7月～8月)

地域社会、関係団体等が一体となり、夏期の青少年の非行防止、健全育成、有害環境の浄化、犯罪被害防止、水の事故・交通事故の防止等、青少年が明るく・正しく・たくましく育つための取組を実施

##### ○ 子供・若者育成支援県民大会(10月)

「子供・若者育成支援強調月間」行事の一環として、子供・若者を正しく心豊かに育成する気運を醸成するための大会を有田市で開催(650人が参加)

- 子育てに関する経済的負担の軽減
 

県が先んじて実施してきた多子世帯を対象とした保育料等の無償化が国において制度化されたことに関わらず、国が制度化していない給食費(副食費)支援や在宅育児支援も継続して実施
- 子育て世代包括支援センターの設置を促進
 

妊娠期から子育て期までのワンストップ窓口として「子育て世代包括支援センター」を設置し、出産や育児に不安を抱える親へのメンタルケアなどを充実(28市町村で設置済み)
- わかやま結婚・子育て応援企業同盟の推進
 

仕事と子育てが両立しやすい社会の実現に向けた気運の醸成を図ることを目的に結成した「わかやま結婚・子育て応援企業同盟」への企業等の参加を促進(440企業・団体が参加済み)
- きのくにコミュニティスクール
 

地域から学校、学校から地域への互いの要請に応え、学校と地域をつなぐ「きのくに教育コミュニティスクール」を推進(県内全388校のうち362校(93.3%)で実施済み)
- ② 子どもたち一人一人が志高く未来を創り出す力を育む教育の推進
  - 第1回クイズ大会「挑戦！わかやまの歴史」(1月)
 

歴史や文化財に興味を持つ子供の知識を深め、郷土の歴史を伝えるリーダーとして活躍できる人材を育成するため、本県の歴史や文化財等に関するクイズ大会を開催(21校、41チーム、118人が参加)
  - きのくにプログラミング教育スタートアップ！フォーラム(3月)
 

4月からプログラミング教育を本格的に実施するにあたり、プログラミング的思考の育成及びプログラミング教育の在り方について協議し、その指導内容を体験教室を通じて紹介
  - 和歌山信愛大学が開学(4月)
 

和歌山市中心地の旧本町小学校校舎をリノベーションし、和歌山信愛大学(教育学部子ども教育学科、入学定員80人)が開学。乳幼児期から学童期の子供を中心にその成長を支える教育者を育成
  - ふるさと教育副読本「わかやま何でも帳」を改訂(5月)
 

ふるさと和歌山を知り、ふるさとへの愛着と誇りをもち、ふるさとに貢献できる人を育てることを目的に教材として活用している「わかやま何でも帳」に世界遺産の追加登録などの内容を追加
  - 第45回全国高等学校総合文化祭和歌山県実行委員会設立会・第1回和歌山県実行委員会(6月)
 

令和3年度に本県で開催する全国高等学校総合文化祭に向けて、関係者66名が委員に就任し、設立会及び第1回実行委員会を開催
  - 世界との対話と協働:アジア・オセアニア高校生フォーラム(7月)
 

アジア・オセアニア20カ国と地域の高校生等が、共に世界共通の課題について意見交換、プレゼンテーション等を行い、国際社会で活躍できる人材を育成(国内外37校45人が参加)
  - 和歌山スーパー未来塾を開講(8月、12月)
 

志の高い県内中高生を対象に、専門分野を探究し続けることの意味や面白さなどを知ってもらうため、東京大学先端科学技術研究センター教員による集中講義や相互交流を実施(27人が参加)
  - きのくに学びの教室を開講(9月)
 

学べる機会を提供するため、定時制・通信制高校(4校)において、様々な事情により義務教育を修了できなかった人や日本語支援が必要な人、その他学び直しを希望する人を対象とした講座を開設
  - 第8回和歌山県高校生英語ディベート大会(10月)
 

英語の学習成果を発表する機会を提供し、物事を多角的な視点からとらえる態度を育成するとともに、ディベート活動を通して英語コミュニケーション能力の向上を図ることを目的に開催(37人が参加)

○ 第8回わかやま高校生クイズin English(10月)

広く世界で活躍できる人材を育成するため、高校生等を対象に、英語に関する知識や和歌山県・日本・世界の事柄について、幅広く英語で質問するクイズ大会を開催(101人が参加)

○ 令和元年度きのくに科学オリンピック(10月、11月)

科学に関心のある高校生が切磋琢磨する場を設け、科学や理数系分野への学習意欲の向上を図り、科学技術の発展を担う人材を育成することを目的に開催(96人が参加)

○ 学力の向上

全国学力・学習状況調査において、本県は、小学6年生では国語23位、算数19位、中学3年生では、国語42位、数学26位、英語21位となり、結果分析・課題整理を行い、今後の取組に反映

○ 体力の向上

全国体力・運動能力習慣等調査において、本県は、小学5年生では男子16位、女子15位、中学2年生では男子23位、女子12位となり、結果分析・課題整理を行い、今後の取組に反映

2. みんなが活躍できる社会づくり

① 誰もが働きやすく、多様な人生を楽しめる社会づくり

○ “りいぶる”20周年記念事業(2月～3月)

和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”開設20周年を記念し、「主人公はわたし!“りいぶる”から広げよう自分らしい人生」をキャッチフレーズに記念ウィークを設定し、様々なイベントを開催

○ りいぶるフェスタ2019(11月)

男女共同参画の推進に向けた県民意識の醸成を目的として、ふれあい人権フェスタと同時開催(約500人が参加)

○ 女性活躍企業同盟の推進

女性が継続して働き活躍できる環境を整備し、その能力を十分に発揮できることを目的に結成した「女性活躍企業同盟」への企業等の参加を促進(502企業・団体が参加済み)

② 共に支えあう地域社会づくり

○ 知事スペイン訪問(1月)

マドリードでは、欧州最大規模の旅行博覧会において20周年を迎えた姉妹道提携にちなみサンティアゴ巡礼道の姉妹道である熊野古道の魅力を発信し、サンティアゴ・デ・コンポステーラでは、熊野古道写真展のオープニングイベントに参加し熊野古道や熊野の精神文化についてのプレゼンテーションを実施

○ タイ副首相一行来県(1月)

タイの副首相一行(約40名)が、日本の地方政府との交流促進等を目的に本県を訪問し、農産物加工、紀州漆器等の県内産業を視察

○ 中国山東省長一行来県(3月)

中国山東省の省長一行(約110名)が、和歌山県・山東省友好提携35周年を記念して本県を訪問し、知事との会談や記念祝賀会・ビジネスセミナーに出席

○ 知事シンガポール・タイ・香港訪問(5月)

【シンガポール】観光客誘致・県産品輸出の拡大を目的として、関係者に対し和歌山プロモーションを実施するとともに、本県が誘致を目指すIRの参考とするため、現地施設を視察

【タイ】タイ副首相との会談や和歌山プロモーション・レセプションを実施するとともに、タイ国内最大級の食品見本市“THAIFEX2019”において、経済交流の拡大を目的としたタイ商務省との覚書を締結

【香港】訪日団体旅行最大手企業の記念祝賀会への出席・交流により、本県への更なる誘客を推進。香港貿易発展局総裁との交流や現地商社等への訪問により、県産品の販路拡大を推進

○ ベトナム首相一行来県(6月)

ベトナム首相一行(約50名)が、二階俊博日越友好議員連盟会長・自由民主党幹事長の発案により、日越両国民の友情の象徴となっている紀の川市の平池緑地公園を訪問

○ 知事中国訪問(10月)

【山東省済南市】山東国際友好都市大会や和歌山県・山東省友好提携35周年を記念した書記・省長との記念会談・祝賀会に出席

【四川省成都市】アドベンチャーワールド関係者等と成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地を訪問するとともに、四川省長との会談、現地旅行会社を対象とした観光トッププロモーションを実施

○ 和歌山県人会世界大会(11月)

海外・県外の県人が一堂に会し、ふるさとを離れた方々への郷土への誇りを高め、県民との相互交流と県民の移民の歴史に対する理解を深めることを目的に開催(海外280人、国内168人が来県)

③ 健康で心豊かにすごせる社会づくり

○ 紀州徳川入国400年に関する取組(7月～)

初代紀州藩主となる徳川頼宣(徳川家康10男)が、紀州55万5千石に転封して400年の節目となることを記念して、関連する展覧会やシンポジウム、イベント等を県内外で開催

○ わかやまりレーマラソン～パンダRUN～(10月)

誰もがスポーツに親しめることができるよう、子供から大人まで気軽に参加し楽しめるマラソン大会を開催し、来る「ワールドマスターズゲームズ2021関西」に向けた気運を醸成

○ 第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」において、本県選手団は22位に(10月)

本県選手団は、19競技40種別74種目で入賞を果たし、13種目で優勝するなど活躍し、昨年の福井国体の27位から22位に躍進

○ 「紀の国わかやま文化祭2021」開催2年前カウントダウンイベント(10月～11月)

県内文化団体等による「盛り上げ隊」の発足や各種PR活動により、「紀の国わかやま文化祭2021」の機運醸成を図るとともに、カウントダウンボード点灯式をふるさと誕生日に実施

○ 外交史料展「外交史料と近代日本のあゆみ」と記念シンポジウム(11月～12月)

近代日本が本格的に諸外国と交流するため外務省が設立されて150年の節目を記念し、本県出身の陸奥宗光の功績を中心に、近代日本の外交の足跡を紹介する展覧会及びシンポジウムを開催

○ ねりんピック紀の国わかやま2019〔第32回全国健康福祉祭和歌山大会〕(11月)

スポーツや文化活動に高齢者自らが参加して、健康長寿を実感し、スポーツや文化の楽しさを味わい、地域や世代を超えた交流の絆を深める大会を開催

(参加者:全国から約1万人、来場者数:延べ56万人)

交流大会:27種目を21市町で開催、健康や福祉などの関連イベントも多数開催)

④ 人権尊重社会の実現

○ 講演会「企業における人権」(1月、11月)

県内企業等に対して、企業の社会的責任としての人権尊重の理念を普及させ、人権意識の涵養を図ることを目的として講演会を開催(3箇所、144人が参加)

○ 同和運動推進月間(11月)

同和問題について正しい理解と認識を深め、一日も早い解決を図るため、11月を同和運動推進月間として、広報誌による啓発や講演会など様々な取組を実施

○ ふれあい人権フェスタ2019(11月)

人権に関する問題について、県民の理解と関心を深め、人権意識の普及・高揚を図ることを目的として、NPOや関係機関と協働してフェスティバルを開催(約7,000人が参加)

- 人権を考える強調月間(11月～12月)  
11月11日から12月10日までを「人権を考える強調月間」として、広報誌による啓発や人権のつどいなど様々な取組を実施
- 公開講座「インターネットと人権」(12月)  
インターネット上の人権侵害を防止するため、県民に対しインターネット上の問題点や正しい使い方について理解を深めることを目的として開催(26人が参加)

## V しごとを創る

### 1. 県内企業の成長力強化

#### ① 中小企業の競争力強化

- 下請取引適正化・事業承継推進会議(3月)  
下請代金支払遅延等防止法の説明や取引適正化の取組事例の紹介を行うとともに、事業承継に係る経営者・後継者世代の意識醸成を図るため、近畿ブロックの会議を本県で開催(約400人が参加)
- 第11回プレミア和歌山推奨品発表内覧会(3月)  
安全・安心を基本に、幅広い分野の優れた県産品等を“和歌山らしさ”“和歌山ならではの”の視点で推奨する県優良県産品『プレミア和歌山』推奨制度の認定品発表会を実施(60品目47事業者を認定)
- 一日中小企業庁inわかやま(6月)  
中小企業庁等の施策を、地元中小企業や関係機関に説明するとともに、「時代を生き抜く和歌山の姿」をテーマとしたパネルディスカッション等を開催(約350人が参加)
- 統一QR「JPQR普及事業」キックオフイベント(6月)  
モバイル端末を用いたキャッシュレス決済の普及を図る総務省の「統一QR「JPQR」普及事業」の開始をPRするキックオフイベントを開催(約200人が参加)
- わかやまネット通販フォーラム(7月)  
県内事業者のEC(電子商取引)市場への新規参入、競争力強化、売上拡大を図るためのフォーラムを開催(105名が参加)
- プレミア和歌山セレモニー(11月)  
プレミア和歌山の認知度向上に向け、主に首都圏のメディア・バイヤーの方々を対象に「試食トークショー」や工芸品等の展示・実演・体験、バイヤーとのマッチング商談会等を実施(約270人が参加)

#### ② 新たな産業の創出

- 第7期わかやま塾の開講(6月)  
将来の和歌山県を支え、世界にはばたくグローバル人材の育成を目的に、50歳未満の県内企業の経営者等92名を対象にした「第7期わかやま塾」を開講(全9回開催)
- わかやま水素社会推進ビジョンを策定(6月)  
エネルギーセキュリティの向上や温室効果ガス排出抑制につながる新たなエネルギーとして期待される水素の普及に取り組んでいくため、和歌山県の考え方や取組方針等を示すものとして策定
- スタートアップ創出支援チームとのマッチングイベント(9月)  
県経済を牽引できるようなシンボリックなベンチャー企業の創出を目指し、10者の創業者・第二創業者とスタートアップ創出支援チームとのマッチングを実施



○ 和歌山ICT企業誘致フォーラムin東京(11月)

首都圏ICT企業に対し、和歌山の優れた立地環境の魅力等を発信し、更なるICT企業の誘致促進を図ることを目的として東京都内で開催(150名が参加)

○ 企業誘致の推進

平成31年1月以降新たに21社の企業立地が決定(※21頁参照)

○ 民営によるICTオフィスの整備促進

市町村と連携して整備してきたICTオフィスに加え、更なる需要に対応し、ICT企業の集積を促進するため、民間事業者によるICTオフィスの整備を支援する制度を創設

③ 産業を支える人材の育成・確保

○ 「和歌山県就活サイクルプロジェクト」合同企業説明会(2月)

結婚や出産等で離職した女性、定年退職した方、都会で働く人が県内で再び働くことができるよう、2月を就活強化月間と定めて、県内4箇所で開催(企業195社、求職者362人が参加)

○ ロボカップジュニア・ジャパンオープン2019和歌山大会(4月)

次世代を担う子供に、ロボットの設計・製作を通じてものづくりの重要性や知的好奇心を抱かせるとともに、コミュニケーション力と協調性を培うことを目的として開催(212チーム、568人が参加)

○ 若者の県内就職・定着の促進

高校生・大学生のためのわかやま就職ガイドによるPR、応募前企業ガイダンスの開催、大学との就職支援協定の推進等により、若者の県内就職を促進(平成31年3月卒業の高校生の県内就職率:77.9%)

2. 農林水産業の振興

① 農業の振興

○ 農業経営発展セミナー(1月、2月、6月)

経営発展の気運醸成を図るため、成功者によるセミナー及び座談会を県内3箇所で開催(184人が参加)

○ 6次産業化交流会(2月)、6次産業化人材育成研修会・個別相談会(9月)

6次産業化に取り組むまたは取り組もうとしている農林漁業者に対する講演会、交流会、研修会、個別相談会を開催(2月:81人、9月:69人、7事業者が参加)

○ 「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定(2月)

日本のみかん発祥の地と云われる海南市下津地域において、園内に設置した土壁の蔵でみかんを熟成させる「蔵出し技術」を生み出し、その技術を継承していることが評価され、日本農業遺産に認定

○ 新ブランド「紀州和華牛」を開発(2月)

赤身肉へのニーズに対応する生産技術を開発し、「紀州和華牛」として紀州和華牛協議会を中心に生産を拡大し、レストランへの提供や消費者へのPRを展開

○ わかやま農業MBA塾(7月～)

農業経営者として必要な能力の修得を目指す農業経営塾を運営し、地域農業をけん引する強い経営体を育成(21人が参加)

○ みかん厳選出荷5年目スタート(9月)

温州みかんの市場評価を高めるため、JAグループと連携して、糖度選別が可能な光センサー選果機を利用して厳選したみかんを市場に出荷する取組を推進

○ 大学や企業との包括連携協定を締結(10月)

県民の健康増進や産業振興など地域社会の発展に資するため、女子栄養大学と、県民の野菜摂取不足解消と健康寿命延伸のため、カゴメ㈱と、それぞれ包括連携協定を締結

- 東京大学×世界農業遺産シンポジウム～地域循環共生圏と世界農業遺産～(11月)  
世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺地域」の活動を参考に、環境省が提唱する地域循環共生圏について、参加者と一緒に考えるシンポジウムを開催(約350人が参加)
  - わかやまジビエフェスタ2019-2020(12月～)  
県内で獲れた野生イノシシ、シカ肉をジビエ料理として楽しむイベントを、参加飲食店・宿泊施設(64店舗)において開催
  - 海外や全国の展示会等への出展を支援、県産品をPRし、販路開拓・販売促進  
1月:ふるさと祭り東京2019(12業者参加、来場者424,401人)、2月:第53回スーパーマーケット・トレードショー2019(30業者参加、来場者88,412人)、3月:第44回FOODEX JAPAN 2019(18業者参加、来場者80,426人)、8月:香港フードエキスポ2019(6業者参加)、8月:全国食の逸品EXPO(16業者参加、来場者54,087人)
  - 産地と連携したフェア等を開催し、販路開拓・販売促進  
6月:わかやま観光物産展(23業者参加、東京都内で日本郵便㈱と共催)、梅の日(6/6)に東京都中央卸売市場で県産梅をPR、7月:和歌山の桃フェア(阪急うめだ本店)、7月・10月・12月:みのりみのるマルシェ(JA和歌山と協働、JR大阪駅)、10月・11月:首都圏百貨店での和歌山農産物フェア(三越日本橋本店、三越銀座店、伊勢丹新宿店)
  - わかやま農産物安心プラス  
生産者の行う安全管理の充実と生産情報の提供を促し、消費者のより高い安心感につなげていくため、令和元年度は13団体30品目(果樹11、野菜18、米1)を認証
  - 県内小中学校等への県産農水産物の提供  
地産地消の取組、県の伝統的な捕鯨文化及び鳥獣被害の現状への理解促進を図る取組として、給食(4品目)や家庭科等の教材(3品目)に使用する食材をのべ2,094校に提供
  - 学校給食での和歌山産品利用拡大プロジェクト[～必ず作ります・売ります・買いますシステム～]  
学校給食での県産農林水産物の利用拡大を図るため、地域の直売所等を核とした安定的な供給体制を構築(6月から広川町、12月からすさみ町で供給開始)
  - 農作物の鳥獣害対策  
野生鳥獣による農作物被害を減少させるため、捕獲、防護、人材育成、環境整備を総合的に推進(ニホンジカ:夜間銃猟(85頭)・管理捕獲(1,179頭)、ニホンザル:管理捕獲(147頭))
  - 果樹王国わかやま  
2018年実績において、みかん生産量は15年連続、産出額4年連続日本一
  - 果実等の海外輸出拡大  
海外展示商談会への出展(5月:タイフェックス(5事業者)、8月:香港フードエキスポ(6事業者)、11月:香港インターナショナルワイン&スピリッツフェア(3事業者))、和歌山フェアの開催(1月:マレーシア、7月・9月:台湾)、県内各JAと協働した県産農産物PR(6月:マレーシア(梅)、10月・11月:米国・豪州(柿)、12月:シンガポール(みかん))
  - 農地流動化の推進  
農地中間管理機構と本県独自に各地域に設置した農地活用協議会の一体的な取組を加速させ、平成26年度からの累積で577haの農地賃借を仲介
- ② 林業の振興
- 紀州備長炭「やまづくり塾」(2月、5月、8月、10月)  
紀州備長炭原木林の択伐施業による資源循環利用の推進と製炭技術の向上を図るため、県内の製炭関係者を対象に県内各所で開催

- 木育フォーラム(2月)
    - 「木育」をキーワードに、施設等の木造・木質化に向けた気運を高めるとともに、紀州材製品のPRと需要拡大を目的に「木育フォーラム」を開催(約100人が参加)
  - わかやま木の家コンテスト表彰式(3月)
    - コンテストによって選ばれた紀州材で建築された住宅の受賞者を表彰(最優秀賞1名、優秀賞2名)
  - 「天皇陛下御在位三十年慶祝行事」及び「わかやま森林と樹木の日」記念行事(4月)
    - 天皇陛下御在位三十年慶祝行事として記念植樹を行うとともに、平成23年開催の全国植樹祭in和歌山を契機とした「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催(約200人が参加)
  - 紀州材・家づくりフェア(6月、10月)
    - 紀州材で建てる家づくりを普及するために、県内の製材所と工務店が家づくりに関する相談会を大阪府で開催
  - エコプロ2019出展(12月)
    - 環境を取り巻く多様なステークホルダーが一堂に集う他に類を見ない展示会「エコプロ2019 持続可能な社会の実現に向けて」(東京)に「企業の森」を出展
  - 紀州材や県産木材品を全国にPRする特別市を開催
    - 3月:優良紀州材展(東京中央木材市場)、6月:木の国和歌山 紀州材展(自民党本部)、6月:紀州材展(西垣林業名古屋市場)、10月:大紀州材展(千葉県丸宇木材市場)
  - 紀州材や県産木材品を全国の展示会等に出展しPR
    - 1月:WOODコレクション(東京都)、2月:木と住まいの大博覧会(東京都)、10月:川崎駅前優しい木のひろば(神奈川県)、10月:LIVING & DESIGN(大阪府)、12月WOODコレクション(東京都)
  - 「企業の森」調印式
    - 企業や労働組合などの方々に社会・環境貢献活動の一環として森林の保全に様々なかたちで取り組んでいただく「企業の森」について、新たに5企業が調印
  - 「企業の森」森林保全活動
    - 「企業の森」に参加している32企業・団体が植栽、下草刈り、間伐などの森林保全活動を実施
  - 森林環境税譲与税を活用した森林の適正管理
    - 森林環境譲与税を活用し、林業の担い手育成や人材確保に必要な機器を整備するとともに、市町村への支援として、森林資源情報を共有化するためのデータ解析を開始
  - 和歌山県森林・林業総合戦略の推進
    - 平成29年に素材生産量の拡大を図ることを目的に、「和歌山県森林・林業総合戦略」を策定。平成30年の素材生産量は前年に比べ35,000m<sup>3</sup>増(16%増)の252,000m<sup>3</sup>
- ③ 水産業の振興
- 商業捕鯨の再開(7月)
    - 国が平成30年12月にIWC(国際捕鯨委員会)に対し脱退を通告し、令和元年7月から商業捕鯨が再開されたことに伴い、本県からも太地町漁協所属の船が出漁
  - 新規担い手育成支援制度を創設
    - 漁村が目指す将来像の実現に向けた実行計画を策定し、その実現に向け、漁業の担い手の育成を総合的に支援する制度を創設(5地区で協議会を設立)
  - 複合複船経営の推進
    - 複数の漁業を営む漁業者や漁業者グループを育成し、経営基盤を強化するため、新たに必要となる設備等を支援

### 3. 観光の振興

#### ① 和歌山の魅力を磨く

##### ○ 和歌山県統合型リゾート(IR)説明会(3月、8月)

IR誘致に関する取組について、県民の理解を得るとともに意見を聴くことを目的として、県内各地で開催(全13回、約830人が参加)

##### ○ IR誘致に関する有識者会議を設置(5月)

特定複合観光施設区域整備法に基づく手続きを進めるにあたり、幅広い分野の専門的知見を得るために、有識者8名で構成する会議を設置

##### ○ 日本遺産認定「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」(5月)

観音を巡り日本人本来の豊かな心で生きるきっかけとなる旅(県内では青岸渡寺と六臂如意輪観音坐像、護国院と木造十一面観音立像、粉河寺と干手千眼観世音菩薩等が構成文化財に選定)が日本遺産に認定

##### ○ IR誘致に関する有識者会議を開催(8月)

特定複合観光施設区域整備法に基づく手続きを進めるにあたり、幅広い分野の有識者から専門的知見を得ることを目的として開催

##### ○ 「統合型リゾート(IR)シンポジウム」を開催(8月)

事業者の考える和歌山IR構想や、IRに関する正確な情報を県民に説明し、誘致機運の醸成を図ることを目的として開催(約450人が参加)

#### ② 和歌山へ招く

##### ○ 和歌山県観光プロモーションビデオが日本国際観光映像祭における部門第1位を受賞(1月)

第1回日本国際観光映像祭において、BBC制作のインバウンド向け和歌山県観光プロモーションビデオが日本部門のCultural Tourism部門第1位を受賞

##### ○ 外国人観光客向けインスタグラム投稿キャンペーン第3弾(1月～3月)

和歌山の新しい冬の魅力を発信してもらうためのインスタグラム投稿キャンペーンとして、フォトコンテストを実施

##### ○ 海外メディアを使った和歌山観光キャンペーン(2月～6月)

世界的ニュースネットワークであるCNNやBBCのウェブサイト並びに、世界的旅行ガイドブックであるロニープラネットのウェブサイトにおいて、和歌山観光キャンペーンを展開

##### ○ 平成30年観光客数が過去2番目を記録(3月)

平成30年観光客動態調査において、観光入込客総数が、前年に比べ日帰り客数・宿泊客数(外国人を含む)ともに増加し、史上最高を記録した平成28年に次ぐ過去2番目の数値(3,461万人)を記録

##### ○ わかやまサイクリングフェスタ2019(3月)

紀の川サイクリングロードと世界遺産高野山を含む紀北地域で大規模サイクリングイベントを開催(942人が参加)

##### ○ 世界遺産登録15周年記念 世界遺産「高野・熊野夢舞台」コンサート(7月)

世界遺産登録15周年を記念し、神倉山に降臨した熊野の神々を最初にお迎えしたとされる熊野速玉大社を会場にコンサートを開催(約700人が参加)

##### ○ 過去最大級クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が和歌山下津港へ初寄港(8月)

本県としては過去最大級となる11万トン級クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が和歌山下津港に初寄港、地域振興に繋がる受入体制の整備やおもてなしを実施

- 「高野山・熊野を愛する100人の会」を設立(9月)  
「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録15周年を機に、その価値の継承とさらなる魅力を国内外に発信するため、各界の著名な方々からなる「高野山・熊野を愛する100人の会」を設立
- RWC2019を契機とした和歌山観光キャンペーン(9月)  
ラグビーワールドカップ2019日本大会の期間中、ラグビー強豪国を中心としたアクティブな欧米豪の観光客をターゲットに、和歌山観光キャンペーンを展開
- 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録15周年記念キャンペーン(10月～)  
世界遺産登録15周年を記念し、世界遺産社寺を含む県内各地域における特別企画などのキャンペーンを実施
- 「水の国、わかやま。」キャンペーン  
「水」という意外性のあるテーマを切り口に、まだ知られていない和歌山の魅力を発信する「水の国、わかやま。」キャンペーンを実施
- わかやま歴史物語  
本県の豊富な歴史と旅の楽しみ方を合わせて紹介する「わかやま歴史物語」を特設ウェブサイト等でPRするとともに、物語の舞台を巡るスタンプラリーを実施
- サイクリング王国わかやま  
県内全域に整備された800kmを超えるサイクリング推奨ルートを、「WAKAYAMA800」として継続的にPR(モバイルスタンプラリー2nd seasonや、自転車アニメ「弱虫ペダル」とのタイアップ企画等を実施)
- スポーツ合宿誘致  
5月:女子セブンズラグビー日本代表、8月:サッカーなでしこリーグチーム、9月:カメルーン女子バレーボール代表、9月:ラグビーナビア共和国代表、11月:男子セブンズラグビー日本代表 など
- クルーズ船の寄港誘致  
和歌山下津港、日高港、新宮港にのべ16隻(乗客8,431人)のクルーズ船が寄港、観光周遊ルートへの誘導やおもてなしを実施

### ③ 和歌山でもてなす

- 高野・熊野地域通訳案内士〔和歌山県版通訳ガイド〕登録証交付式等(5月)  
高野・熊野地域を外国語で案内できる地域通訳案内士の第7期生を登録(英語21人、中国語4人、スペイン語1人)し、先輩通訳案内士による講義やビジネスマッチングを実施
- 多言語電話通訳・簡易翻訳サービス  
急増する外国人観光客とのコミュニケーション向上のため、多言語電話通訳・簡易翻訳サービス(11言語)を継続して実施
- 和歌山おもてなしトイレ大作戦  
県、市町村及び鉄道事業者等の官民が協働して、観光地における公衆トイレを整備(洋式トイレを導入し温水洗浄便座を設置、男性用小便器の自動洗浄化、オストメイト用設備の設置)

## 4. 時代の潮流を踏まえた産業の新しい発展

### ① ICT等の利活用推進

- ワークेशन・スタートアップ!(7月)  
ワークेशनの全国フォーラムを東京都内で開催し、中心的役割を担う本県と長野県がワークेशन自治体協議会(通称WAJ)の設立に向けた宣言文に署名(参加自治体24都道府県52市町村)
- 親子ワークेशन(8月)  
首都圏企業等の社員とその子供(主に小学校低学年)を対象に親子ワークेशनプログラムを提供し、白浜町・串本町で実施(3泊4日以上、親子8組23人が参加)

- ワークーション・フェスタinアキバ！（11月）  
ワークーション推進に関する全国的な自治体連合「ワークーション自治体協議会」（通称WAJ）の設立総会及び設立記念式典を東京都内で開催（63自治体、約300人が参加）
  - キャッシュレス決済の促進  
統一QR「JPQR」普及事業（総務省）、キャッシュレス・ポイント還元事業（経済産業省）を活用し、県内事業者のキャッシュレス決済導入を推進
- ② データ利活用の促進
- データ利活用シンポジウム（1月）  
県民のデータ利活用に関する意識の向上やデータ利活用の重要性・有用性を全国に発信することを目的としてシンポジウムを開催
  - データ利活用等に関する協定の締結（6月、9月、11月）
    - ・ 総務省統計局、（独）統計センター、和歌山市、東京大学との連携協定（6月）
    - ・ NTTコミュニケーションズ（株）との連携協定（9月）
    - ・ 総務省統計局、（独）統計センター、滋賀大学との連携協定（11月）
  - 統計データ利活用センター開設1周年記念シンポジウム（7月）  
当センターの開設1周年を記念し、新しい時代のデータ利活用の姿を発信すべく、総務省、（独）統計センター、本県の共催によりシンポジウムを開催（303人が参加）
  - 特別講義「高度な統計数理計算」（7月）  
県内で数学に秀でた人材を育成するため、高度な数学、統計数理、経済分析などの特別講義を開催（全6回、69人が参加）
  - 和歌山県統計大会（11月）  
統計関係者の士気高揚と統計思想の普及啓発を目的とし、統計に関して功績のあった者を表彰するとともに、講演会を実施（約200人が参加）
- ③ 国際化を踏まえた産業の新しい発展
- タイ工業省産業振興局とのMOU締結（5月）  
本県とタイ王国の企業の相互支援のため、産業連携に係る覚書（MOU）を締結し、産業集積地連携促進事業、ビジネスマッチング等を実施することに合意
  - タイ商務省国際貿易振興局とのMOU締結（5月）  
本県とタイ王国の企業の相互支援のため、経済交流・促進に係る覚書（MOU）を締結し、「ローカルからグローバル」をテーマとして、ビジネスミッション、マッチング等を実施することに合意
  - ベトナムビジネスセミナー&マッチング（8月）  
ベトナム社会主義共和国商工省と締結した貿易及び産業連携促進のための覚書に基づき、セミナーやビジネスマッチングを実施（ベトナム側ベトナム商工省、4自治体21企業、県側33企業10機関が参加）
- ④ 時代を先導する産業の発展
- 小型ロケット発射場建設予定地として串本町を選定（3月）  
スペースワン（株）が串本町での小型ロケット発射場の建設を決定し、人工衛星の地球周回軌道への打上げを計画
  - 宇宙シンポジウム in 串本（8月）  
衛星工学の第一人者や関連企業の経営者等を講師に招き、宇宙ビジネスや宇宙教育をテーマとしたシンポジウムを串本町で開催（約600人が参加）

○ ロケット発射場建設工事 起工式・祝賀会(11月)

スペースワン(株)がロケット発射場建設工事に着手することから、起工式・祝賀会を串本町で開催(のべ約200人が参加)

## VI いのちを守る

### 1. 自然災害への備え

#### ① 「災害による犠牲者ゼロ」の実現

○ 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表(2月)

近年の大雨や短時間強雨の発生頻度の増加に伴う甚大な洪水被害に対応するため、想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を7河川で新たに作成し、関係市町のハザードマップ作成を促進

○ 広川水系河川整備計画の策定(4月)

二級河川広川水系の今後20年間における具体的な河川整備の内容を定める河川整備計画について、国の同意を得て策定

○ 「和歌山県防災ナビ」アプリに新機能を追加(6月)

現在地や自宅付近の、河川水位、河川監視カメラの映像、土砂災害の危険度情報を、防災ナビから簡単操作で確認可能となる機能を追加

○ Twitterを使用した災害情報の発信(7月)

災害発生時には多様な手段を用いた情報発信が必要となることから、拡散性や即時性が高く、通信制限を受けにくいTwitterを使用して災害情報を発信する仕組みを構築

○ 古座川水系河川整備計画の策定(10月)

二級河川古座川水系の今後20年間における具体的な河川整備の内容を定める河川整備計画について、国の同意を得て策定

○ 地震・津波対策や洪水・土砂災害対策の進捗を加速化

平成30年12月にとりまとめられた「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に伴い、国が措置した総事業費概ね7兆円を有効に活用し、県が既に計画している各種防災対策の進捗を加速化

○ 津波避難困難地域の解消

東海・東南海・南海3連動地震において4町22地区、南海トラフ巨大地震において12市町61地区と想定した避難困難地域を解消するための取組を推進(3連動地震で13地区、巨大地震で6地区が解消済み)

#### ② 発災直後の迅速な救助体制と早期復旧体制の確保

○ 行政の災害対応力強化

・ 孤立集落通信訓練(1月)

大規模災害発生時に市町村と孤立集落間の情報伝達を円滑にするため、防災行政無線等の動作確認や操作方法の習熟を図る通信訓練を実施

・ 総合統制室運営図上訓練(1月)

災害対策本部総合統制室運営体制の検証と職員対応能力の向上及び事務の円滑化を図ることを目的とした図上訓練を実施(145人が参加)

・ 災害対策本部会議運営訓練(8月)

自衛隊や近畿地方整備局等関係機関が参加し、南海トラフ地震を想定した災害対策本部会議運営訓練を実施(約130人が参加)

- ・ 石油コンビナート等総合防災訓練(10月)  
石油コンビナート区域で発生する可能性がある災害に迅速かつ円滑に対応するため、各防災関係機関・事業所相互における協力体制の強化を図る訓練を実施
- ・ 物資輸送・災害情報収集伝達訓練(10月)  
実際に広域防災拠点を開設して救援物資の受入等を行い、大規模災害時の対応の確認を行うとともに、職員の対応能力の向上と関係機関との連携強化を図ることを目的に訓練を実施
- ・ 津波災害対応実践訓練(11月)  
南海トラフ地震などの津波災害に対する迅速な初動対応と災害対応力強化を図るため、関係機関と連携した救助活動などの訓練を県並びに沿岸6市町で実施
- ・ 「世界津波の日」地震・津波避難訓練(11月)  
地震・津波に対する防災意識の高揚を図るため、避難訓練を「世界津波の日」に合わせて、市町村、保育所、幼稚園、小中学校、高等学校、自主防災組織、福祉施設、事業所等、県内全域で実施

#### ○ 地域防災力の強化

- ・ 4県連携自主防災組織交流大会及び和歌山県自主防災組織情報連絡会情報交流会を合同開催(2月)  
南海トラフ地震発生時に甚大な被害が想定される4県(三重県、徳島県、高知県、和歌山県)で毎年開催する交流大会を本県で開催し、地域防災活動の活性化や防災リーダーの育成を促進
- ・ 自主防災組織の活動の日(6月)  
平成28年度より毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」と設定し、集中活動期間(5月26日～6月8日)を中心に、県内各地で防災訓練や防災学習を実施
- ・ 地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」(9月～12月)  
自主防災組織や企業等で中心的な担い手となる地域防災リーダーを育成し、地域防災力の向上を図るため、防災に関する知識・技術を学ぶ講座を開催(200人が参加)
- ・ 津波防災講演会(10月)  
11月5日の「世界津波の日」「津波防災の日」の趣旨を踏まえながら、地域住民の防災意識の向上を目的とした津波防災講演会をすさみ町で開催(230人が参加)

#### ○ より効果的な災害対策を講ずるための協定締結

- ・ 災害時における停電・通信障害復旧作業の連携等に関する協定の締結(4月)  
災害により広範囲の長時間停電・通信障害が発生した場合に、その復旧作業に支障となる倒木・土砂などの障害物を除去する作業等を県が支援できるよう、関西電力㈱、西日本電信電話㈱と協定を締結
- ・ 災害時における電動車両等に関する協定の締結(11月)  
県内において災害が発生した際に、避難所等への電力供給等に活用できる電動車両等の貸与を受けられるため、三菱自動車工業㈱及び和歌山三菱自動車販売㈱と協定を締結
- ・ 「復興計画の事前策定」の推進  
被災したまちや地域の復旧復興を遅れさせないため、大規模災害が発生する前に予め描いておく復興計画を、県が示したモデルに基づいて美浜町が2月に策定

### ③ 県民生活の早期再建と地域のより良い復興

#### ○ BCP(事業継続計画)策定ワークショップ(1月、2月、10月、11月)

県内中小企業を対象に、災害時等緊急事態における被害を最小限に食い止めるため、訓練を通じた体験型ワークショップを開催(4回、38社が参加)



## 2. 医療の充実と健康の維持

### ① 命を守る医療の充実

#### ○ 若年がん患者への支援制度を創設(7月)

若年がん患者が、がん治療前に生殖機能を温存し、将来、子供を産み育てる希望をもって、がん治療に取り組むことを支援する治療費助成制度等を創設

### ② 医療提供体制の再編・充実

#### ○ 災害時医療機関診療情報の見える化(10月)

大規模災害時に医療機関の診療情報を速やかに発信できるよう、県内の83病院、18透析診療所を対象に、診療や透析の受入可否、診療科目・時間などの情報を県民に提供できるシステムを構築

#### ○ 地域医療構想の推進

将来のあるべき適切な医療提供体制を示した「地域医療構想」の実現に向け、各医療圏域において、医療機関や医療団体等の関係者により構成される地域医療構想調整会議を開催

### ③ 医療人材の育成・確保

#### ○ 和歌山県立医科大学薬学部の建設工事に着手(1月～)

1月から伏虎キャンパス(和歌山市立伏虎中学校跡地)の薬学部校舎、4月から紀三井寺キャンパスの医薬看共同研究施設の建設工事に着手(令和3年4月開設予定)

#### ○ 地域偏在解消のための継続的な医師確保対策

へき地等の医師不足を解消するために「地域枠」設置を要件として時限的に認められている医学部臨時定員について、2022年度以降も継続するよう、国に対して提言活動を実施

#### ○ 専門研修プログラム募集定員の確保

5月に示された専門研修プログラム募集定員のシーリングでは、専攻医が確保できず、地域に必要な医師を派遣できなくなる恐れがあることから、制度を見直すよう国に対し提言

### ④ 健康づくりの推進

#### ○ 自殺防止対策の推進に関する有識者会議を設立(10月)

平成30年の自殺死亡率が全国ワースト1という憂慮される事態に鑑み、様々な立場の有識者8人で構成される「自殺防止対策の推進に関する有識者会議」を設立し、実効性のある対策を検討

#### ○ 「みんなで実践！健康づくり運動ポイント事業」自治会参加型ランキング表彰式(11月)

自治会主催のラジオ体操や清掃活動等にポイントを付与し、地域ぐるみで楽しく運動習慣の定着をめざす取組において、年間累計ランキング結果に基づき、上位の自治会(6団体)を表彰

## 3. 安全な社会の実現

### ① 治安・交通安全の向上

#### ○ 和歌山県飲酒運転の根絶に関する条例の制定・施行(4月)

平成29年の死亡事故に占める飲酒運転割合が全国ワースト1位の状況等を鑑み、飲酒運転の根絶に関して、県、県民及び事業者の責務を明らかにし、飲酒運転の根絶に関する施策を定めた条例を制定

#### ○ 和歌山県自転車の安全利用の促進に関する条例の制定・施行(4月)

自転車の安全利用の促進に関し、県、自転車利用者等、県民及び事業者の責務を明らかにし、自転車の利用に係る交通事故の防止及び被害者の保護を図ることを目的とした条例を制定

## VII くらしやすさを高める

### 1. 快適な生活環境の実現

#### ① 良好な生活空間づくり

##### ○ 和歌山県水道ビジョンを策定(6月)

人口減少に伴う料金収入の大幅減少や水道施設の老朽化などの状況に対応するため、市町村域を超えた広域連携圏域を設定するなど、水道の基盤強化に向けたビジョンを策定

#### ② 循環型社会の構築

##### ○ 解体工事現場に対する立入検査(10月)

産業廃棄物の不法投棄等の不適正処理を未然に防止するため、解体工事現場に対する立入検査を県内5箇所を実施

#### ③ 地球温暖化対策の推進

##### ○ 和歌山の環境にふさわしい太陽光発電事業の普及

県太陽光条例に基づく取組(太陽光発電事業計画の認定申請の審査、事業者や地域住民からの問い合わせへの対応等)を進め、太陽光発電事業計画6件について認定

### 2. 支え合う福祉の充実

#### ① 高齢者福祉の推進

##### ○ 高齢者等の見守り協力に関する協定を締結(7月)

一人暮らしの高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、新たに明治安田生命保険相互会社和歌山支社、和歌山県信用金庫協会と協定を締結(計12事業者と締結)

##### ○ 特別養護老人ホームなどの着実な整備

施設への入所を望む高齢者のために必要となる特別養護老人ホームなどの施設を2030年までに約16,600床整備する計画を着実に実行

##### ○ 自立支援型ケアマネジメントの推進

介護の必要度が低い軽度の方を対象に、自立につながる適切なケアプランを検討するための「地域ケア個別会議」に取り組む市町村を支援(25市町村で実施)

#### ② 障害者福祉の推進

##### ○ 第19回和歌山県障害者スポーツ大会(5月)

障害者スポーツの振興を図るとともに、障害者の自立と社会参加促進に寄与することを目的に障害者を対象とするスポーツ大会を開催(開会式及び6競技において838人が参加、45人が全国大会に出場)

##### ○ フレンドシップ2019〔ボッチャ競技〕(7月)

身体障害者の体力向上や、身体障害者に対する県民の理解を深めることにより障害者の社会参加を促進させることを目的に、障害者スポーツ大会としてボッチャ競技を実施(125人が参加)

##### ○ わかやまこころのフェスタ2019(11月)

県民のこころの健康の保持・増進と、こころの病に対する正しい理解を深めることを目的として、精神保健福祉啓発イベントを開催(201人が参加)

##### ○ 第17回紀の国チャレンジド賞及び紀の国チャレンジド・サポート感謝状授与式(12月)

障害を克服し、生き生きとした社会生活を送っている人に対する知事表彰状及び障害のある人の活動を支えている人に対する知事感謝状の授与式を挙

### ③ 困難を抱える家庭等へのきめ細やかな対応と自立支援

#### ○ 子供の生活実態調査の結果をとりまとめ(3月)

平成29年に策定した「和歌山県子供の貧困対策推進計画」に基づき取り組む各施策の検証を行い、より効果的な施策を推進することを目的として実施した実態調査をとりまとめ、今後の施策に反映

#### ○ 和歌山県犯罪被害者等支援条例の制定・施行(4月)

犯罪被害者等の権利を保護し、被害の軽減と早期回復を図るため、支援施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とした条例を制定

#### ○ 企業と「商品寄贈による社会福祉貢献活動に関する協定」を締結(6月)

生活に困難を抱えた方々への支援や地域福祉の推進を図るため、(株)セブン-イレブン・ジャパンが店舗改装時等に在庫となった商品を県社会福祉協議会に寄贈し有効に活用する協定を締結

#### ○ 総合的な依存症対策

ギャンブルやアルコールなど様々な依存症に対する相談体制を充実させるため、精神保健センターに相談拠点を設置するとともに、関係機関の連携を強化する体制整備に着手

### ④ 福祉人材の育成・確保

#### ○ 介護ロボット等導入支援制度を創設(6月)

介護従事者の離職率の低減を図るため、業務効率化や職場環境の改善につながる介護ロボット等の導入支援制度を創設

## VIII 地域を創る

### 1. 活力と魅力のあるまちづくり

#### ① 和歌山が誇る豊かな自然の継承

##### ○ 和歌山県の人と自然をつなぐシンポジウム(1月)

自然と人がより良い関係を築くためにはどのようにすれば良いかを考える機会として、「和歌山の里地里山」をテーマとしたシンポジウムを開催(310人が参加)

##### ○ 和歌山県外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する条例を制定・施行(4月)

外来生物の防除等の措置を講ずることにより、生態系等に係る被害を防止し、生物の多様性の確保、人命及び身体の保護並びに農林水産業の発展など、県民生活の安定向上に資する条例を制定

##### ○ 南紀熊野ジオパークセンターがオープン(7月)

南紀熊野ジオパークの拠点として、最新のプロジェクションマッピング映像や実験・体験装置により、熊野の大地の成り立ちや自然、生き物などを理解できるだけでなく、常駐するジオパークガイドから地域の魅力を聞くことができる施設が串本町潮岬にオープン

#### ② 和歌山が誇る文化遺産や景観の保存・保全と活用

##### ○ 文化財の指定(7月～)

7月:阿須賀神社境内出土品が国重要文化財に新規指定、9月:根来寺6棟が国重要文化財に新規指定、10月:水軒堤防が国史跡に新規指定、10月:史跡「和歌山城」の一部地点が国史跡に追加指定

##### ○ 歴史的建造物何でも相談室を開設(7月)

県内の貴重な歴史的建造物を未来に伝えていくため、所有者・管理者や市町村の担当者等を対象にした「何でも相談室」を開設

##### ○ 高野山町石道周辺特定景観形成地域の拡大等(9月)

かつらぎ町内の「三谷坂」、「丹生酒殿神社」が世界遺産に追加登録されたことを受け、高野山町石道周辺特定景観形成地域を拡大し、その名称を高野参詣道(町石道)周辺特定景観形成地域に変更

- 国際博物館会議(ICOM)京都大会2019CEGAオフサイトミーティング in Wakayama(9月)  
博物館施設の教育普及活動をPRするため、日本初開催の国際博物館会議京都大会における教育・文化活動国際委員会のオフサイトミーティングを本県で開催(世界各国の博物館関係者90人が参加)
- 「歴史の道百選」の追加選定(10月)  
役行者の修行の場として今も使用されている「葛城修験の道」、行商人の往来や西国巡礼等に広く利用された「古座街道」が「歴史の道百選」に追加選定
- ③ 個性豊かで暮らしやすい中山間地域づくり
  - 第2回ふるさと生活圏交流会(7月)  
地域の課題解決や活性化に取り組むふるさと生活圏(寄合会)の情報交換及びネットワークづくりのための交流会を那智勝浦町で開催(12生活圏56人が参加)
  - 公募型移住者選抜会(7月、11月)  
各地域(市町村)が求める人材を公募し、参加者からスカウトする選抜会を大阪・東京で開催。参加31団体(市町村、事業所等)のうち19団体がスカウトに成功(参加者41人うち29人をスカウト)
  - 地域公共交通研究会(8月、11月)  
人口減少が進む中、地域の公共交通網を維持していくため、地域の実情に応じた持続可能な公共交通のあり方を考える機会として、行政と住民による意見交換等を県内2箇所を実施
  - わかやま移住ジャム(10月)  
和歌山県ならではの移住者の受入体制及び多様なライフスタイルをPRし、移住潜在層の掘り起こしを主眼としたイベントを東京都において開催(257人が参加)
  - 半島振興対策促進大会(11月)  
全国の半島関係者が一堂に会し、関係国会議員や関係省庁に対して、半島地域の自立的発展を図るための支援を求めることを目的に東京都内で大会を開催(244人が参加)
  - わがまち元気プロジェクト  
地域固有の資源を活用し、個性豊かで活力ある地域づくりに取り組む市町村を3年間にわたり支援(令和元年度支援プロジェクト:有田川“ぶどう山椒”Connect、濱口梧陵生誕200年～梧陵さんと広川町の魅力再発見～、紀州漆器を活用した黒江ブランドの構築、活気あふれる箕島漁港、幻の古道と神秘的な地「龍の里」づくり)
  - わかやま版「過疎集落支援総合対策」  
住民生活の一体性を重視したふるさと生活圏を対象に、日常生活機能の確保や地域活性化を総合的に図る取組を支援(令和元年度に事業中の実施生活圏:紀美野町志賀野生活圏、古座川町七川生活圏、かつらぎ町花園生活圏、有田川町粟生生活圏、有田市宮原生活圏、湯浅町田村生活圏)

## 2. 地域をつなぐネットワーク

### ① 交通ネットワークのさらなる充実

- E42阪和自動車道「和歌山南スマートインターチェンジ」、主要地方道和歌山橋本線、一般県道三田海南線が開通(3月)  
当該道路の開通により、高速道路利用者の分散に伴う和歌山IC周辺道路の混雑緩和、観光地や臨海部工業団地へのアクセス向上、及び災害時における防災機能の強化や救急医療体制の充実等に寄与
- 一般国道42号新宮道路新規事業化(3月)  
国土交通省が一般国道42号新宮道路の新規事業化を発表(延長:4.8km、事業区間:新宮市あけぼの～新宮市三輪崎)
- 南紀白浜空港が民営化(4月)  
観光客やビジネス客の利用促進を図るため、民間事業者のノウハウを活用した空港運営や国際便の受入体制の強化などに取り組む中、4月1日に民営化が開始されたことに伴い記念式典を開催

- 一般県道那賀かつらぎ線〔笠田中〕開通(4月)  
町道かつらぎ山手線から国道24号間の約0.5kmを供用。当区間の開通により、鍋谷トンネルを介した大阪方面や、京奈和自動車道かつらぎ西ICから丹生都比売神社・高野山へのアクセスが向上
  - 一般国道370号阪井バイパス開通(6月)  
阪井バイパスの開通により、国道424号木津バイパスと併せて海南市域の幹線道路網が強化。交通混雑の解消、観光周遊ルートの形成、災害時の迅速な救助・復旧活動等に寄与(延長:2.6km)
  - 一般県道垣内貴志川線〔愛宕橋〕開通(6月)  
新しい愛宕橋を含む約200m区間を供用。当区間の開通により、紀州サン・リゾートラインと相まって道路ネットワークの強化が図られるとともに、周辺地域の利便性向上や地場産業の活性化に寄与
  - 主要地方道岩出野上線〔諸井橋〕開通(6月)  
新しい諸井橋を含む約250mを供用。当区間の開通により、岩出橋を介して国道24号や大阪方面、貴志駅や平池緑地公園へのアクセスが向上し、観光振興や地域の活性化に寄与
  - 太地新宮自転車道線(那智勝浦町二河地内)開通(7月)  
「サイクリング王国わかやま」の実現に向け、海のサイクリングロードとして、これまで整備してきた太地町森浦から那智勝浦町二河地内の1,000m区間に続き、700m区間を新たに供用
  - 近畿自動車道紀勢線建設促進協議会促進大会(10月)  
紀伊半島一周高速道路の早期実現に向け、近畿自動車道紀勢線の建設促進大会を三重県と共同開催
  - 南紀白浜空港就航便の大型化、運賃値下げ(10月)  
県や地域の要望により、南紀白浜空港就航便の朝便及び夕便が大型化されるとともに、当面は令和2年3月までの間、2便の運賃が値下げ。これに伴い、関係機関が連携し大型化記念キャンペーンを実施
  - 南紀白浜空港サポーターズクラブを設立(10月)  
南紀白浜空港への愛着を深め、空港の利用促進を図るため、個人・法人、県内外在住に関わらず加入できる各種特典付きのサポーターズクラブを設立
  - 「県内主要都市間2時間移動」及び「県内3時間移動」の実現に向けた道路ネットワークの整備  
企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、また、大規模災害への備えとして、高速道路や県内幹線道路等を整備
- ② 情報通信基盤の整備
- 第5世代移動通信システム(5G)を使った遠隔医療の実証試験を実施(1月)  
県立医科大学と日高川町国保川上診療所エリアの間を5Gを含む高速通信ネットワークで接続し、高精度映像をリアルタイムで共有することにより、医大の専門医が高度医療をサポートする試験を実施

## ○平成18年12月以降の本県への企業立地動向

	企業名	立地場所
1	アイコム(株)	紀の川市
2	(株)NTN	上富田町
3	(株)松源	和歌山市
4	ペトロマテリアル(株)	和歌山市
5	アトラック(株)	橋本市
6	エアウォーター(株)	和歌山市
7	本州化学工業(株)	和歌山市
8	剤盛堂薬品(株)	和歌山市
9	恵和(株)	印南町
10	(株)タカショー	海南市
11	原田織物(株)	橋本市
12	(株)スミロン	日高川町
13	(株)オークワ	和歌山市
14	(株)ユアブレインズ	和歌山市
15	ビーウィズ(株)	和歌山市
16	恵和(株)	御坊市
17	大輪産業(株)	橋本市
18	(株)アルバック	橋本市
19	亀宝倉庫(株)	和歌山市
20	(株)NMソルト	和歌山市
21	南海化学(株)	和歌山市
22	ミナベ化工(株)	みなべ町
23	パナソニック(株)AIS社	紀の川市
24	辻岡運輸(株)	和歌山市
25	新日鐵住金(株)	和歌山市
26		和歌山市
27	和興建産(株)	和歌山市
28	太陽食品(株)	和歌山市
29	極東化成工業(株)	岩出市
30	尾高ゴム工業(株)	紀の川市
31	関戸運輸(株)	和歌山市
32	アドバン工業(株)	和歌山市
33	(有)久保田エンジニア	紀の川市
34	(株)ホタニ	紀の川市
35	(株)エスアールアイ	海南市
36	ペトロマテリアル(株)	和歌山市
37	東京製綱(株)	和歌山市
38	(株)マルテン天満屋	日高川町
39	(株)コズミックランド	白浜町
40	大阪富士工業(株)	和歌山市

	企業名	立地場所
41	笠野興産(株)	和歌山市
42	(有)コバタ総合研究所	橋本市
43	田辺金属工業(株)	田辺市
44	朝日オリコミ和歌山	和歌山市
45	(株)中井鉄工所	橋本市
46	(株)しんこう技研	紀の川市
47	旭精機(株)	橋本市
48	(株)NMソルト	和歌山市
49	木本産業(株)	有田市
50	尾高ゴム工業(株)	紀の川市
51	太洋工業(株)	和歌山市
52	住友精密工業(株)	和歌山市
53	花王(株)	和歌山市
54	エアウォーター(株)	和歌山市
55	南海化学工業(株)	和歌山市
56	(株)三晃精密	橋本市
57	(株)ふみこ農園	有田市
58	(株)テクノ・アシスト	紀の川市
59	棒引製材	みなべ町
60	白光印刷	和歌山市
61	林化成(株)	橋本市
62	(株)見果てぬ夢	田辺市
63	大日本除虫菊(株)	海南市
64	共同印刷(株)	有田川町
65	花王(株)※研究施設	和歌山市
66	紀和化学工業(株)	紀の川市
67	三菱電機(株)	和歌山市
68	日建産業(株)	御坊市
69	豊国金属工業(株)	橋本市
70	ミナベ化工(株)	みなべ町
71	(株)ニッコク	岩出市
72	紀州ファスナー工業(株)	御坊市
73	(株)九重雑賀	紀の川市
74	(株)丸徳水産	和歌山市
75	ハグルマ(株)	紀の川市
76	藤本製菓(株)	御坊市
77	北広ケミカル(株)	橋本市
78	ヤマトコンタクトサービス(株)	和歌山市
79	日進化学(株)	橋本市
80	スターゼン西日本販売(株)	和歌山市

	企業名	立地場所
81	(有)日本鮎養殖	那智勝浦町
82	(株)串本マリンファーム	串本町
83	南紀串本水産(株)	串本町
84	東京製綱(株)	和歌山市
85	川口水産(株)	有田市
86	和歌山ガーデンクリエイト(株)	海南市
87	(株)ケー・ワイ・ビー	紀の川市
88	(株)イブバイオサイエンス	橋本市
89	中紀精機(株)	御坊市
90	(株)エス・ティー・ワールド	和歌山市
91	(株)赤井工作所	岩出市
92	(株)ユニカル	橋本市
93	クックスベスト(株)	那智勝浦町
94	(株)ゼネラルステッカー	田辺市
95	ナイス(株)	和歌山市
96	松林金属(株)	橋本市
97	(株)インテリックス	和歌山市
98	中部抵抗器(株)	紀の川市
99	富士香料化工(株)	橋本市
100	岡村製油(株)	橋本市
101	理工協産(株)	橋本市
102	(株)たにぐち	日高川町
103	川本化成(株)	和歌山市
104	(株)玉林園	和歌山市
105	(株)丸阪	橋本市
106	藤本食品(株)	岩出市
107	小川工業(株)	橋本市
108	北辰精工(株)	橋本市
109	(株)フューチュレック	海南市
110	(株)河鶴	みなべ町
111	橘電装工業(株)	和歌山市
112	(株)紀山	紀の川市
113	紀南パンジー(株)	上富田町
114	菱岡工業(株)	和歌山市
115	EH製菓(株)	田辺市
116	(株)エムジェイテック	橋本市
117	中辻産業(株)	橋本市
118	真和テック(株)	橋本市
119	ナカザワ建販(株)	紀の川市
120	(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	和歌山市

	企業名	立地場所
121	(株)山登化学	橋本市
122	大和歯車製作(株)	日高川町
123	南海スチール(株)	和歌山市
124	(株)九重雑賀	紀の川市
125	(株)竹中商店	田辺市
126	(株)プリントテクニカ	橋本市
127	メディスト(株)	白浜町
128	(株)興栄ケミカル工業所	橋本市
129	(株)早和果樹園	有田市
130	(株)インテリックス	和歌山市
131	中紀精機(株)	印南町
132	笠野興産(株)	和歌山市
133	太陽シールパック(株)	和歌山市
134	(株)ポタジエ	紀の川市
135	(株)サンコー	海南市
136	尾高ゴム工業(株)	紀の川市
137	(株)セールスフォース・ドットコム	白浜町
138	(株)梅丹本舗	紀の川市
139	ライオンケミカル(株)	和歌山市
140	旭精機(株)	橋本市
141	(株)西日本建設物流	和歌山市
142	和歌山太陽誘電(株)	印南町
143	日本遠隔制御(株)	橋本市
144	クオリティ(株)	白浜町
145	毎日マーク(株)	橋本市
146	光栄ピーナッツ(株)	橋本市
147	デュプロ精工(株)	紀の川市
148	前田ローブ工業(株)	海南市
149	(株)食緑	新宮市
150	(株)寿精密	かつらぎ町
151	(株)サンオー	和歌山市
152	北広ケミカル(株)	紀の川市
153	澤田酒造(株)	橋本市
154	(株)菖蒲谷	湯浅町
155	ナギサビール(株)	白浜町
156	(株)インテリックス	和歌山市
157	NECソリューションイノベータ(株)	白浜町
158	(株)TREE	白浜町
159	日進化学(株)	橋本市
160	(株)玉林園	和歌山市

	企業名	立地場所
161	小西化学工業(株)	和歌山市
162	(株)八代	橋本市
163	原田織物(株)	橋本市
164	小川工業(株)	橋本市
165	紀州技研工業(株)	和歌山市
166	日進香料(株)	橋本市
167	(株)モリカワ	田辺市
168	幕末(株)	御坊市
169	オーアイテック(株)	紀の川市
170	(株)ぼん家具	和歌山市
171	(株)9Times	橋本市
172	田村薬品工業(株)	橋本市
173	日本シール(株)	橋本市
174	(株)コテック	橋本市
175	津田工業(株)	紀の川市
176	(株)早和果樹園	有田市
177	(株)ブイキューブ	白浜町
178	(有)島本化繊起毛工場	和歌山市
179	キタヤマトーヨー住器(株)	和歌山市
180	(株)佐原工業所	橋本市
181	(株)嶋治水産	有田市
182	ワイオー・ラボ(株)	湯浅町
183	(株)海南精密	海南市
184	アドバン工業(株)	和歌山市
185	西川製作所	和歌山市
186	久保田工業(株)	和歌山市
187	(有)プラ和歌山	印南町
188	ワコー(株)	海南市
189	(株)平和エンジニアリング	紀の川市
190	(株)東研サーモテック	橋本市
191	紀州ファスナー工業(株)	御坊市
192	セイカ(株)	和歌山市
193	(株)松源	岩出市
194	(株)NTN	橋本市
195	(株)subLime	白浜町
196	日進香料(株)	橋本市
197	(株)アクトプロ	和歌山市
198	三菱地所(株)	白浜町
199	(株)ウフル	白浜町
200	紀陽除虫菊(株)	海南市

	企業名	立地場所
201	(株)たにぐち	日高川町
202	(株)NTN紀南製作所	上富田町
203	ハバジツ日本(株)	紀の川市
204	(株)赤井工作所	岩出市
205	(株)Ultimate Life	田辺市
206	(株)クリアネット	田辺市
207	スターティア(株)	和歌山市
208	大和歯車製作所(株)	日高川町
209	(株)東紀繊維	岩出市
210	(株)共立物流システム	紀の川市
211	(株)西沢木材店	和歌山市
212	高砂建材工業(株)	和歌山市
213	(株)アイセン	海南市
214	(有)畑野化成	和歌山市
215	(株)共栄テクシード	紀の川市
216	大日本除虫菊(株)	海南市
217	エンザントレイズ(株)	田辺市
218	(株)BizPlatform	和歌山市
219	(株)興栄ケミカル	橋本市
220	南海スチール(株)	和歌山市
221	友信化学(株)	和歌山市

※太線枠内は、令和元年立地企業